

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 定刻の時間となりましたので、ただいまより平成27年8月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

本日の会見は、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後につきましては、本日は事業発表がございませんのでフリーの質疑応答へと移らせていただきたいと思います。

なお、お手数ですが、ご発言の際は自席にありますマイクのスイッチを入れていただきまして、ご発言が終わりましたら切っていただくようお願いいたします。終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 8月の定例記者会見でございますが、事業については報告がないというご案内をさせていただいております。

今度、高校野球、敦賀気比が甲子園に行くことになりまして、春夏連覇ということがかかっていますので、気比高校の皆さんにはぜひとも甲子園で活躍していただき、必ず連覇をしていただきたいということを敦賀市民の一人として非常に期待しているところであります。

また、夏になりましていろんな事業がございます。きょうお手元に配らせていただいていると思いますけれども、8月16日には、とうろう流しと大花火大会がございますので、ぜひともよろしく申し上げます。

また、9月の2、3、4、5日と敦賀まつりがありますので、これもまたどうぞよろしくお願いいたします。

夏になってまいりますので、海の海水浴シーズン、また祭りのシーズンということで、敦賀の夏が皆様にとって楽しい思い出に残るものであることを期待しております。

以上でございます。

【秘書広報課長補佐】 ありがとうございます。

それでは、順に質問をお受けしたいと思います。最初に、幹事社様からお願いいたします。

【記者】 6月議会でいろいろと議論がありました中で、角鹿中学校の小中一貫教育について、市長は再検討するというふうにご発言なさっていたんですけども、閉会から1カ月弱ですけれども、再検討の内容というのがどのような方向で検討されているのか及び小中一貫校に関しては保護者の方とか自治会長さんとかの要望書も、進めてくれという要望も出ていたと思うんですけども、その方たちに対しては、この間での議会でのご発言の趣旨とか中身について、もう説明はなされたのでしょうか。

【市長】 その件につきましては、教育委員会、教育長と話を進めているんですけども、詳しいことは教育長のほうでお話すると思います。

【教育長】 今のお話のことなんですけれども、議会終了いたしましてから2週間ほどたっているんですけども、まず学校現場の校長先生方に対しまして、全ての学校を回らせていただき、このお話を聞いているところでございます。実際のところ、目の前の子供たちの状況で、例えばいろんな状況があるわけなんですけれども、まず私自身が敦賀の子供の状況をきちんと把握して、その後、小中の交流とか、それから連携というふうな形になってくるのではないかなというふうに思っております。

それぞれPTAの皆さんから、今後はお話もお聞きし、それから各区の区長さんのほうからもお話をお伺いしなければなというところでございますけれども、現在、まずもって目の前の子供たちを預かっていらっしゃる校長先生からお話を聞いているという状況がございます。

今ご質問ございましたように、保護者の皆様、とりわけ角鹿中学校区の皆様からのお話も今後お伺いするという予定でございます。主にPTAの方々になると思うんですけども、PTAの代表者の方々とはできるだけ早い時期にお話を伺いするというところ、こういうふうな計画を立てているところでございます。

もちろん要望書を出された区長さん方につきましても、順次お話をお伺いしつつ今後の検討を、再検討ということでございますので、中身につきましても検討してまいりたいなというところでございます。

【記者】 そうしますと、保護者の方とかからお話を聞いて、聞いた結果によっては現状の、角鹿中の件ですけれども、角鹿中学校の小中一貫校を進めるという、そういうことも当然あるという理解でよろしいですか。

【教育長】 そうですね。するとかしないとかということではなく、2つに一つの選択ではなく

て、中身を十分精査しているところがございますので、その後に結論が当然出てくるのかなど。先ほど全市的な状況もという、議会の折に全市的な状況もというふうなお話もさせていただきましたので、例えば角鹿中学校区の小中一貫校、では、ほかの校区はどうなのかと。そういうふうな面も含めまして、当然トータルに、全市的に考えていかなければいけない課題であるということについては私も認識しておりますので、ですので検討委員会の答申も受けてということになりますけれども、具体には、先ほど申しましたようにPTAの皆さんとか区長さんとかのお話も再度お伺いしつつ、話は進めてまいりたいなというところがございます。

【記者】 角鹿中に関して言えば、学校、校舎の耐用年数というのがあと3年ほどで迫ってくるわけですが、そうしますといずれにしろ校舎の問題というのは出てくるわけで、それを考えると方針はいつごろまでに決めなきゃいけないというふうな、そういうスケジュール感というのをお持ちなのでしょうか。

【教育長】 今の段階で申しますのは、できるだけ早い段階でというふうなことしか申せませんので、例えば1年後とか2年後とかというふうなことではなく、できるだけ早い段階でということと考えているところがございます。

【秘書広報課長補佐】 同じく幹事社様、よろしくお願ひいたします。

【記者】 全原協会長としてのお立場としてお聞きしたいんですけども、来月の中旬、早ければそのあたりで鹿児島県の川内原子力発電所が新しい国の規制基準のもとで再稼働する見込みなんですけれども、まず、これについての会長としてのお受けとめ、所感を一言お願ひしたいんですけども。

【市長】 やっと原子力発電所が動くところが出てきたなということで、よかったなというふうに思っております。

【記者】 関連しまして、その一方で、県内を見ますと、再稼働に向けた手続が進んでいるのは高浜原子力発電所の3・4号機というところが見えている以外、特に動きというのが余り見えない状況が続いています。夏場も多分このままでいくと県内の原子力発電所、動くものがないまま、また原子力発電所ゼロの夏というものが来ると思うんですけども、県内、動いていない、あるいは審査が進んでいない状況については、どのようにお受けとめですか。

【市長】 敦賀2号機がありますけれども、事業者からの申請待ちということでありますから、出していただいたら速やかに審査していただくようにということ働きかけているということです。

【記者】 最後なんですけれども、一つは事業者に対する働きかけもあると思うんですけども、国、規制委員会側に働きかけるようなお考えとか、そういったところは今のところございますか。

【市長】 規制委員会につきましても、先日、規制庁へ伺いまして、出てきたときには速やかに対応していただきたいということは申し上げております。人的補充とかそういうこともして迅速化していただきたいということは、こちらからお願ひとしては申し上げたところです。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社お伺いをいたします。ご質問がございましたら挙手をお願ひいたします。

【記者】 同じく全原協の会長のお立場でお聞きしたいんですけども、今日、関西電力の美浜原発が、やや専門的になるんですけども震源の深さについて4キロと主張していたのが、規制委の強い求めを受けて3キロというのに見直す方向なんですけれども、これまでも規制委員会の会合なんかで、敦賀2号機が破碎帯が活断層であるという認定を受けたりとか、近くだと志賀原発なんか活断層であることを否定できないというような、規制委の強いリーダーシップ、主導で動かさない原発、廃炉に追い込まれるような原発が出たりとか影響がいろいろと出ているんですけども、全原協の会長として、そういった審査のやり方とか姿勢について、問題があるなら問題がある、評価しておられるなら評価しておられるで結構なんですけれども、どういうふうに思っておられるかを教えていただけないでしょうか。

【市長】 3キロとか4キロとか、4キロと主張しておって3キロになったということは、より厳しくなったということでもありますけれども、そういう専門的な部分については正直言いますと私にはわからないというところでもありますけれども、一律に3キロと決めてしまうんじゃなくて、それぞれの場所によって条件があるわけですから、その辺はきちんと理由があって決めていただきたいなということを思います。

【記者】 理由があって決めてほしいというのは、どういうことなんでしょうか。例えば事業者の主張にもう少し耳を傾けてほしいというような思いなのか、もしくは基準に関して結構きめ細

かく見てほしいというようなお考えなのでしょうか。

【市長】 事業者の気持ちをちょっと酌んでほしいなということを思います。規制委員会のほうでは恐らく人的資源というのが余りないので、早くしようという気持ちもあるんでしょうから、審査するのにマニュアル化をしようとしているんじゃないかなという気持ちもありますので、個々の事例に対して、きちんとそこを見て判断していただきたいなという気持ちはあります。

【記者】 もう1点お尋ねしたいんですけれども、全原協の会長として要望されていた廃炉の場合の支援、電源三法交付金を引き続き支給してほしいとか、もろもろのことを要請されていたと思うんですけれども、昨日の自民党の調査会で、実際に廃炉の場合も何がしかの支援をしようというような方向性が示されたわけなんですけれども、そのあたりのことについて何か受けとめだったり、どういう感想をお持ちか、おありでしょうか。

【市長】 これからになると思うんですけれども、具体的にどんなメニューがなるのかというのはわかりませんが、やはり地元とすると国策に従ってきたというのがあって、田舎ですからどうしても原子力に頼らなくてはいけない経済的な構造になってしまいますので、その辺を十分にわかっていただいて、廃炉までケアしていただきたいというふうに思っています。

【記者】 もう1点だけお尋ねしていいですか。

全然話が違うんですけれども、きのう赤レンガ倉庫、内覧会開かれて、市長も当然中を見られたと思うんですけれども、ご感想、期待を教えてくださいませんか。

【市長】 皆さん見ていただいたというふうに伺っているんです。私はまだそこまで、できる前に見まして、写真でしか見てないんですけれども、思ったより大きなスケールで精密にできていますので、また皆さん楽しみに来ていただきたいなというふうに思っています。

【記者】 6月議会ですごいもめた幼稚園の保育料の件なんですけど、今現状では、また当初の市長の考えどおりに据え置きをする可能性もあるんでしょうか。

【市長】 それは前回の議会で審議していただいて、議案として否決されましたので、そこで一応終わって、そのままやっていくしかないというふうに思っています。

【記者】 ということは、次の9月議会とかでも、新たに保護者に説明した上で、もともとの案のおおりの予算案を出すことはないんですよね。

【市長】 そういうことを聞かれることがいまいわからないんですけれども、こちらが提案しまして議会として判断しましたよと。議案をだめですよという話が出ましたので、その否定することに対してコメントは何もついてないです。否定しましたよということなんです、議会としては、ですから何らかの状況が変わらないと。例えば3月から6月のときには市長もかわりました。議員もかわりました。選挙ありましたから。そこで判断が変わるかもしれないという状況がありますから議案として審議できますけれども、6月に出して否決されたということで、出したい気持ちがあっても、その理由づけというのができません。というところにおります。

【記者】 その話はもういいんですが、きのう駅前整備構想の策定委員会があって、議会でももめたとおりに、きのうの委員会でも鉄道・運輸機構の事務所を何であそこの駅前に持ってくるのかという話ばかりだったんですね。駅前に持ってくる事務所というのは、今後あそこの場所からかわる可能性はもうないということなんですか。

【市長】 昨日につきましては、いろんなご意見があって、批判的な意見もありましたし、認めてくださるご意見もあったということをお伺いしているんですけれども、建設事務所ですから、建設工事が終わりましたら当然そこで用がなくなれば返していただくという場所です。

【記者】 それは分かります。もしあそこにつくれば、あそこにつくることはもう決定で、絶対変わることはないんでしょうか。

【市長】 今、変わる予定はありません。

【記者】 分かりました。

【記者】 今の関連なんですけれども、駅周辺整備のことで、昨日の委員会の中でもかなり時間がない中で、市のほうとしてある程度のプランを示して、そこで議論していくべきじゃないかという意見もありましたが、市長として、新幹線開業前倒しも決まっています、いつごろまでにある程度の構想を出さなきゃいけないという思いがありましたら教えてください。

【市長】 駅東を含めて、駅の新幹線の周りどうしていくのかというのは喫緊の課題なんです。私、就任しまして、どこを話をしていいのかというところから始めて、ずっと動いておりますし、計画についてもできるだけ早くつくるように指示しておりますので、本当にできるだけ早くというのが、今やっつけてしまわないとまずいという感覚を持っています。

【記者】 ある程度のめどといたしますか、いつごろまでには示さないといけないというようなスケジュール感みたいなものはないですか。

【市長】 県と機構さんと打ち合わせしていくということになりますけれども、そんなに時間はないというお返事でございますので、本当に急がなくてはいけないというところです。もしくは、ぎりぎり間に合わなくなってしまうかもしれないぐらいのぎりぎりなところにおおると思います。

【記者】 関連なんですけれども、今の県と機構さんとの打ち合わせというのは駅東に関してということなんですか。

【市長】 いや、新幹線全部に関してです。

【記者】 駅東の開発についてのお尋ねなんですけれども、8号線から東側の骨格幹線道路、多分県が整備するものだと思うんですけれども、毎年ここ数年は市の重要要望事項として県に上がっているんですけれども、今ほども話出ていますように、3年前倒しが決まったということで、まさに急がないといけない事業だと思うんですけれども、その辺の展望といたしますか、毎年毎年、三、四年前から県に整備してというふうにして言っているはずなんですけれども、県の感触といたしますか、もう事業採択されるような見通しなのかどうか。その辺はどういうふうにお感じになっていますか。

【副市長】 今のところ事業採択云々というところまでは、まだ正直、行っておりませんけれども、事務レベル等を含めまして、昨年よりはさらに突っ込んだ形の中で協議をさせていただいていまして、また、今年も知事要望のほうにも当然上げさせていただきますが、知事に要望する内容についても、さらに踏み込んだ形で今年は要望していきたいというふうに考えております。

【記者】 毎月毎月伺っておるんですけれども、アクアトムの活用についてなんです、現在の進捗状況を伺えますでしょうか。

【企画政策部長】 現在、県のほうと色々な案につきましてキャッチボールをやっておりまして、最終段階に差しかかっているという状況でございます。

【記者】 差し支えなければ、どんな案が出ているのかというのは伺えるのでしょうか。

【企画政策部長】 実は利害関係者がありまして、何名も。その関係もありまして、ここで今のタイミングで出すことは非常に難しいので、そこら辺はご理解していただきたいかと思えます。

【記者】 市長は、選挙戦の間から恐竜についてお考えをお示しでしたけれども、その実現の見通しというのはいかがなものでしょうか。

【市長】 恐竜博物館の一部展示できないかなということでありましてけれども、常設はできないけれども、できれば期間限定でもという気持ちはあるんですけれども、今はこっちのほう条件がもう少し詰まりますので、そうしますと次のステップに行けるのかなというふうに思っています。まだ未定です。

【記者】 そうすると、例えば恐竜を入れるかどうかというようなことも、今の条件が詰まってからまた再度検討するという形になるんですか。

【市長】 今やっています、整いつつある条件が決まりましたら、その次のステップとして打ち合わせに入っていくということになります。

【記者】 今、具体的に折衝されている条件というのは、具体的に何なんですか。

【企画政策部長】 今は所有割合といたしますか、あと運営形態、この2点について調整しております。

【記者】 今そういう2点について最終段階にあるというお話でしたが、いつごろをめどに合意できそうでしょうか。

【企画政策部長】 できれば8月中を目指しております。

【記者】 それ以降のスケジュール、見通しみたいなのがあったら、8月中にその2点の条件合意されて、以降のスケジュールみたいなのは何かお聞かせいただけたらと思うんですが。

【企画政策部長】 それは機構からの受け入れといたしますか、譲り受けということでの条件面、その調整。その後、運営方法とかについての具体的な、先ほど市長の答弁にもありましたような、どういったものを行うかという、こういったこととか、それに伴います改修も必要かと思えますので改修計画とか、新たにリニューアルに向けてのタイムスケジュール、そういったものの設定とか、そこら辺になってきます。

【記者】 そうしますと、機構に対して譲渡を求める申請というのは8月中に出されるご予定であると受けとめればよろしいのでしょうか。

【企画政策部長】 機構さんも含めまして、合意に至った段階で直ちに移りたいと思いますので、それが早ければ早いほどいいかと思えます。

【記者】 早ければ8月中にもということですか。

【企画政策部長】 そうです。

【記者】 結局は改修したりとかいづれ将来取り壊しのときに市も費用負担という方向で調整しているということでもいいんでしょうかね。

【企画政策部長】 解体撤去費用につきましては、できれば市としても、もともと建てたものではありませんので持ちたくないというのが本音ですので、そういった条件も調整中でございます。含めての調整でございます。

【記者】 県としては、何がしか費用負担しないと飲みにくいという、そういうところでもかなりもめていたんだと思うんですけども、費用負担一切なしでいけそうなんですか。ある程度、所有割合も何対何になるのかわからないですけども持つわけなのに、大丈夫ですか。

【市長】 今その部分交渉中なので、詳しく言えないので、また相手のあることなので、このぐらいでお願いします。

【記者】 県は、たしかエネ研に入っている国際原子力人材育成センターなんかを持ってくる方向だったと思うんですけども、基本的にはその延長線上ではないんですか。

【企画政策部長】 延長線上といいますか、今までやりとりしてきて、その中で調整を図っております。県と話し合いを直接しておりまして、その後、機構さんとか関係利害者と話し合いまして、なおかつ、ある程度まとまった段階で、また、うちの議会に対しまして説明を行います。議会に対しての説明を経まして、議会のほうにもある程度納得していただいた上で、譲渡申請とか、そういった具体的な手続に入っていきたいと考えております。

【記者】 それはそれでわかるんですけども、ただ、前から出ていた話で、公的な財産で、しかも利害関係者って市と県とエネ研、機構、文科省ぐらいですか。ほぼ公的な人たちだけなんだから、そんなに状況が大きくがらっと変わるということでなければ、回答を避けるものでもないと思うんですよ。どうなんでしょうね。

多分、目的もある程度、譲渡の場合って、そんなに何でもかんでも譲渡できるわけではないと思うんですよ。その辺どうなんでしょう。がらっと変わるようなものなんですか。

【企画政策部長】 現時点で所有割合とか、そういった細かい数字の詰めになっていますので、こういった費用についてはうちで持ちます、こういった費用については県にしましょうとか、持ってもらいますとか、あるいは、こういったものについては機構で持ってもらいましょうとか、そういったことを詰めていますので、そこら辺、利害者がありまして調整ついた上で、ある程度、一定段階まで進んだ段階で初めて議会のほうへ出すというか説明するという形になりますので。そういったところで、言ってみると最終的な調整段階にあるというふうに言えると思います。

【記者】 ごめんなさい。何度も返すようですけども、所有割合が45対55か60対40かはお聞きしてないんですよ。何に使うものなのかというのを、税金で建てられて、それを公のところに譲渡されるものを何に使うのか。譲渡するのはもう話が出ていて、じゃ何に使うのかとずっと出てきていたもので、そこをそんなに所有割合で利害関係者も多いから、まずは議会様にご説明をとか言わなくても、そこは出してもいいんじゃないですか。

【市長】 敦賀市が使う分につきましては、にぎわい施設ということで一応決まっているんです。そのにぎわい施設、何が入っていくかというのは今から打ち合わせに入っていくと思います。

もう一つ、協議していることをお互いに、今まで条件がそり合わなかったところを合わせようとしていますので、結構デリケートなところをさわっていますので、なかなかしゃべれないというところはあると思いますので。ただ、もうちょっとで決が出そうだということと、敦賀市とするのにぎわい施設をつくるよということで、ご理解ください。

【記者】 敦賀市営球場なんですが、閉鎖してちょうど1年ぐらいなんですが、今後どう活用していくかの方針はもう決まっていますか。

【教育委員会事務局長】 市営球場の部分につきましては、先般6月議会でもありましたとおり、いろんな改修の部分とか修繕の部分、そういった部分を調査しております。そういったところを見て、今後どういった形での活用という形になろうかなど。今はそういった部分の調査ということでやっているところでございます。

【記者】 現状の調査というのは、あくまで野球場として継続して使うための調査をしているということなんですか。

【教育委員会事務局長】 今のところ現状というところで、どういった修繕が必要なのかというところを調査しているところです。

【記者】 調査はいつぐらいに終わって、いつぐらいにどうしようか方向性は出そうですか。

【教育委員会事務局長】 それも含めて、相当調査箇所が多いので、そこをまずは優先的にやっ
てからという形になろうかと思っております。

【記者】 具体的な調査箇所というのは、場外飛球とか、かなり老朽化して壊れそうな部分もある
と思うんですが、それ全て含めてということですか。

【教育委員会事務局長】 まず施設の土台の部分とか、あとは周りの環境ですね。水回りとかそ
ういった部分も含めて調査という形で、どれぐらいかかるのかというところは調査をしていると
ころです。

【秘書広報課長補佐】 ほかにございますでしょうか。

それでは、これもちまして8月の市長定例記者会見を終了させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

午後2時5分 終了